

あとから来る者のために
田畠を耕し
種を用意しておくるのだ
あとから来る者のために
川を海を山を
きれいにしておくのだ
あとから来る者のために
我慢をし
みなぞれの力を傾けるのだ
あとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなぞれ自分でできる
なにかをしてゆくのだ

あとから来る者のために
坂村
真民

発行:NPO 法人地球環境共生ネットワーク 〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村字喜舎1478番地 TEL:098-923-2600 FAX:098-923-2611

編集人:U-net 発行人:比嘉照夫

令和5年 第4回 EM技術セミナー

U-net 会員対象の第4回 EM 技術セミナーが9月8日にオンラインで開催されました。今回、最初に沖縄県で EM 活用した環境浄化と人財育成に取り組んでおられる青山様に発表して頂きました。次に、日本各地で U-net ユニバーサルビレッジモデルプロジェクトに取り組んでおられるプロジェクト担当者の方々に進捗状況をご報告していただきましたので発表内容をご紹介します。

「EM を活用した環境浄化活動と人財育成」

U-net 監事 青山真紀

私は、2011 年より人財育成事業の個人事業を営んでおり、2013 年より「風土と食と人をつなぐ」をコンセプトに地域活動(地域応援団おおとり会)をしております。私の EM 生活のキッカケは、2019 年、量子力学を学んでいたところ『愛と微生物のすべて』に出会いました。EM の凄さ素晴らしさに感動し、あらゆる比嘉先生の書籍を読み漁り、おおとり会代表の喜友名さんと妹にも声を掛け、生活や畑に EM を使い始めました。当時、自治会長も担っていた喜友名さんが、EM 研究機構さんにご依頼をし、その年に 5 回、EM 講座を開催しました。私も参加し学ばせて頂きました。喜友名さんの自治区には、小川が流れしており、「環境を考えよう！風土をいかそう！横田の谷をピカピカにしちゃおう」というテーマで EM 団子作りワークショップが開催されました。EM 団子投入後は、近所の皆さんからも声が上がるほど、小川のヘドロが分解され、透明感のある川になりました、皆さん大喜びでした。



【よみがえる自然プロジェクト「EM 団子で比謝川浄化大作戦」】

2019 年は EM 生活を通しての体験。横田自治会での各テーマ講座と小川浄化体験。県外や海外、ハワイでの EM 团子で河川浄化の様子を知る年となりました。EM が大好きになり、この素晴らしい EM を私も伝えていきたいと思い、2020 年 EM 商品を扱う正規販売店をオープンしました。2021 年地域活動の有志が立ち上がり、「よみがえる自然プロジェクト ~EM 团子で比謝川浄化大作戦」がスタートしました。

年に 2 回(春と秋)実施し、3 年目の今年(2023 年 8 月現在)は、参加団体延べ 34 団体、13,050 個の EM 团子を比謝川へ投入しました。



【プロジェクトの進め方】

5 市町村にまたがる比謝川。地域に住む者が、またより多くの地域の人たちの関わりや手で、この比謝川を蘇らせたいと思いました。長く継続し、より多くの地域の皆さん参加できるように、下記の構成でプロジェクトを進めています。

<①目的>一つ目は川魚や植物、虫など、多様な生き物が棲む生態系豊かな比謝川へ。二つ目は、あらゆる場面や分野でEMを取り扱い、人と自然の調和・共生社会を創り出す、沖縄の活力となる地域人の育成とっています。

<②メンバー>おおとり会代表の喜友名さんが、日頃から地域活動や社会貢献活動をしている方へ提案しました。共感賛同をいただき 6 名のコアメンバーが集まりました(よみがえる自然プロジェクト)。



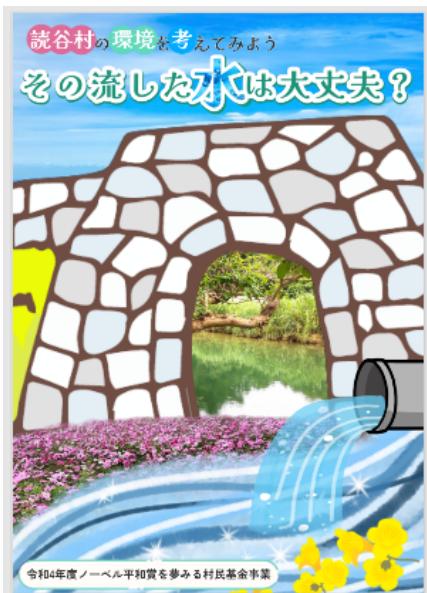
<③協力者>EM 講座と EM 技術指導を「EM 研究機構様」。1974 年より比謝川をきれいにする活動をなされている「比謝川を生生させる会様」。遊びや学びのプログラムを通して起業家教育とエデュテーメント(教育 × エンターテーメント)活動をなしている「沖縄ハシズオン NPO 様」。比謝川の上流であり、EM 団子投入の池を提供してくださっている「公益財団法人沖縄こどもの国様」の各社様より、実施にあたっての賛同と協力をいただいております。

<④広報>各種メディアにも取り上げていただいております。新聞社「琉球新報」「沖縄タイムス」、テレビ局「琉球朝日放送 QAB」、ラジオ局「ラジオ沖縄 ROK」と「FM よみたん」。



<⑤公的機関>後援に読谷村、嘉手納町、沖縄市へご依頼をしております。また、比謝川河川使用許可に、沖縄県中部土木事務所へ申請をしております。担当者様へ活動の様子もお話ししております。

<⑥活動資金>第 1 回は、おおとり会の自己資金と寄付で実施しました。私たちが住む地域の河川を自分たちで蘇らせ、活動を長く継続出来るようにということから、第 2 回目からは参加団体様にも学びの講座と資材としての参加費をもって取り組んでくださっています。EM 研究機構様の支援を多く受ける中、第 3 回は備品資金に、琉球銀行様の「りゅうぎんユマール助成金」にエントリーし、採択されました。第 4 回は『自然環境共生への意識向上と人財育成の為の教材制作』を目的に、私の住む読谷村の助成金「令和 4 年度ノーベル平和賞を夢見る村民基金」にエントリーし、採択されました。ショートムービー、ドローン撮影動画、教材冊子、EM 団子説明資料を制作しました。



【プラスα＝人財育成・キャリア教育】

比嘉先生が仰る「水や空気のように EM を使う EM 技術者」が、あたりまえになることを私たちも想い描き望み、使い手によってクリエイトしていく「人財育成・地域人の育成」の観点を入れました。

学校の教育が「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方」生きる力の育成へと変わりました。実践的体験的「学びの場」へ。教室から「社会総がかり」へ。知識を得るから「アクティブラーニング」へ。主体的・対話的で深い学び。学習を通して自己の在り方や生き方を考える「探究学習」へ。

私は、学校と地域社会を繋ぎ、学校内外で学びの場(授業)を学校の先生と共に創るキャリア教育コーディネーターをしております。「よみがえる自然プロジェクト～EM 団子で比謝川浄化大作戦」を生きる力の観点より、目的等を共有し、学びの場面(授業)としてご提案しています。

【大切にしていること】

本プロジェクトを進めていくにあたり大切にしていることが 3 つあります。一つ目は、「社会的意義・社会貢献」です。受け手や関係者が目的や詳細を把握できるように企画書と報告書を作成しています。二つ目は、「地域資源 × 生きる力の育成」です。比謝川という地域資源と EM という微生物を使って学習・体験・実践を通して、取り組んでいることの振り返りを行います。アンケートを取り、児童生徒の声を先生や地域の皆さんへフィードバックして、次の学びの場面(授業)創りに繋げています。三つ目は、「公共的な可視化」です。第三者の皆さまが繋がりを持つることを意識しています。EM 団子作り以外の EM 講座コラボ。EM 交流会や EM ボカシ作りのコミュニティー。比謝川や環境浄化活動をしている様子を SNS で配信しています。また、7 月からローカルラジオ局「FM よみたん」で番組を持たせてもらい、EM の働きを活用して「人と自然の共生社会作り」に取組む地域活動の情報を発信しています。

【今後について】

①EM 団子投入数をより多くの皆様と共に、10 万個を目指します。②年に 2 回の実施を数回に増やします。③水質状況や比謝川の変化について調べていきます。④EM を使ってクリエイティブに地域環境や社会を創り出す人たちの姿や取組みにスポットを当てた EM 技術者人財バンクのプラットフォーム『EM ユニバーサル・ビレッジおきなわ』にチャレンジする意向です。



「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

青山さんの報告では、世の中に物事が定着するためのひとつの手法、別の言い方をすれば正統派の取組みについて、そのノウハウをたくさん提供していただきました。一番大事なことは、時間をかけながら社会的意義を認識し、この取組みが人財育成につながって行くということです。要するに、関わった人たちの一生を通して、この関わり合いが、人生を豊かにし、お互いの結びつきが強くなります。いろいろな形で、人財や自らの育成につながるように、その仕組みが動き始めています。

一方で、社会皆がつながると言う状況では、どうしても主従関係が生まれてきますが、EM活動の取組みはでは、実際に自分たちでEMを培養してEM団子等々を作り参加していくと、それぞれ自分の体験がしっかりと自分の意識にプリントされ、EM技術をベースに、どうすれば上手く本活動を発展させられるか、また、相互のコミュニケーション促進を考えるようになります。そうなると、自然と参加者の関係や交流することで人財育成、社会貢献という方向性に成長させることができます。

青山さんのような使命感を持っている方がしっかりと取り組むことで、様々な状況が発生し重なって、未来が楽しくなる動きが生まれます。比謝川浄化の活動は、沖縄で最も汚い川で、沖縄市内の動物園(子どもの国)の近くから源流があり、動物園内の池を通り下水の整備されていなかった沖縄市を通り、読谷村の海岸に流れています。実際上、比謝川の流れる地域は、行政区や学校区も違うので、協力を取り付けることはとても大変ですが、バックグラウンドとして、沖縄の教育関係者の間ではプール清掃や生ゴミ処理にはEMが活用できるということを認識しており、EMが教科書の副読本に掲載されていましたので、環境学習や地域の浄化活動、学校教育でもEM活用が推進されています。学校のプール清掃活動でもEMが活用されており、その費用も学校予算に計上されています。

遡れば、私が琉球大学にいた頃に、教育学部でEM講座を実施したこともあります。その当時の学生が、今や校長やリーダー的な役割をしており、県全体としてEMに対する抵抗は何もない状況です。従って、これからEMを普及しようと思ったとき、今回発表いただいた青山さんのようなプロセスを踏まえると、寄付や協力者が出てきますし、活動を通して人財が育つと後継者の心配をしなくても、みんなで社会を良くして行こうという、誰かが特別に負担する訳でなく、活動を通じて人間が成長して行きます。このような仕組みが形成できれば、組織は進化して行きます。これからEMを組織的に社会化していく際に、青山さんの知恵をお借りして取り組んで行ければと考えています。

比謝川は、以前は天気の良い晴れたときには川から悪臭が発生していましたが、現在では、本当にきれいになり、海岸では魚も戻っています。EMは次第に定着しますので、EM団子投入量が10万個に達成した時には清流になるものと確信しています。それが達成されれば、この活動の参加者の人生の満足度が違ってきますし、自分たちで改善した結果が見えることが、他の活動とは違ってきます。このような点を意識してからの活動が発展することを期待しています。

ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト進捗報告会

「めぐる葦生プロジェクト」

めぐる葦生プロジェクトチーム リーダー 濱野貴子

はじめに、本プロジェクトの2年目の活動をサポートいただきまして比嘉理事長をはじめ、理事の方々、事務局の方々、会員のみなさまへ感謝の気持ちをお伝えします。

本プロジェクトは高知県香美市香北町葦生野のフィールドにて「不耕作田んぼや畠」、「古民家（住まい）」、「山林」、そして「人の繋がりと健康」を複合的かつ連携的に蘇生していくことを志しています。全てが呼吸を深めていくようなイメージです。この取り組みの過程において土中環境、芸術的な視点も織りこんでいきます。

令和5年9月時点において、これまで取り組んできたことを共有させていただきます。まずは「田んぼ2年生」。1年目は半分の面積で実験耕作しましたが2年目は一反七畝の敷地いっぱいに耕作面積を広げました。3月終わりには田んぼの先生 Mご夫妻、Tさん、Nさんご夫妻、Hさんに畔づくりを手作りで取り組んでいただき、その美しさには目を見張りました。代かき後には去年仕込んだ400kgのEM ボカシを投入、田植えに挑みました。大雨の明くる日の晴天日に子供から学生、大人35名ほど集まり軽快なテンポと和やかな雰囲気で田植えが進みました。若い学生たちと子供たちの笑い声を聴きながら山々が喜び微笑んでいるようでした。



プロジェクト2年目の今年の稻刈りは9月30日、10月1日を予定しています。

田植え直前に、それまで田んぼを管理してくださっていた T さんにあまりにも大きな負担がかかりすぎたことから田んぼ自体の存続が危ぶまれる窮地に直面しました。オランダ在住である私自身が察することができなかったこの状況を反省し「〇〇しなければならない」ではなく、田んぼを「あいつ」と呼び友人のお世話をするようなスタンスで『田んぼの「あいつ」助っ人』チームによってゆるやかに続けていく実験がはじまりました。このようなハプニングがあったことから、昨年比嘉理事長にいただいた「EMの大量投入をする。」というアドバイスも前半は達成することができずおりましたが、夏に私が帰国した折、より結界も強化し、いもち病対策も兼ねてできるだけ日々EM活性液を田んぼに投入するように進めております。

稻作作業の負担を軽減するために、雑草対策および土壤改善のための冬期湛水、多年草化栽培、などを視野に入れつつ『田んぼの「あいつ」助っ人』チームを育んでいくことが今後の稻作を重ねていく際にとても重要だととらえております。

古民家再生と土中環境改善のとりくみについても簡単に共有させていただきたいと思います。

昨年秋に行った現地調査では山、田畠、家屋を一体のものとして土中の水と空気の循環を改善しつつ再生させて行く視点を学びました。6月にはその繋がりから高知市在住の造園家、Nさんとご縁をいただき長期的に関わっていただくことになりました。8月には高知工科大学の古民家再生サークルの学生たちとNさんを講師に招き、母屋改善ワークショップを庭の土中環境改善をテーマに行いました。改善作業に多くの炭を使うために、今後EMグラビトロン炭を加えていこうと考えています。作業後の庭にはEM活性液を撒きました。その他、母屋、離れの建物共々結界の強化と建物前面への活性液の撒布を実践しました。



この活動においては学生たちの自主性をどのようにサポートできるのかも今後の重要な課題です。

本プロジェクトにはEMを扱うことに特化して興味をもって来られる方たちがほぼおりません。微生物をつかうことに関して抵抗のある方たちもいらっしゃいません。それぞれの興味で関わってくださる方々がこのようないい形でEMと関わっていってくださることが長い視点で善い方向へ導かれていくことがあれば幸いに思います。

最後になりますが、オランダの文化団体が本プロジェクトに関心を寄せてくださっており今後の交流、コラボレーションなどに関してはまたアップデートさせていただきたいと思います。

引き続き、本プロジェクトのとりくみの中で「繋がり協働を欲する人」、「美しい日本文化を大切にする人」、「地球を善くしたいと想い行動する人」、「自然を敬い自然に生かされる人」そして「美しいものへ五感を開き体感する人」に出会い、繋がっていきたいと心より願います。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

ご質問等はメールにて : tponsuke@gmail.com

「水稻における塩を用いた雑草対策とEMグラビトン農法の確立に向けて」

紀州 EM ひろば 代表 山路誠二

令和5年の塩を使った雑草対策の実証試験の結果を報告します。

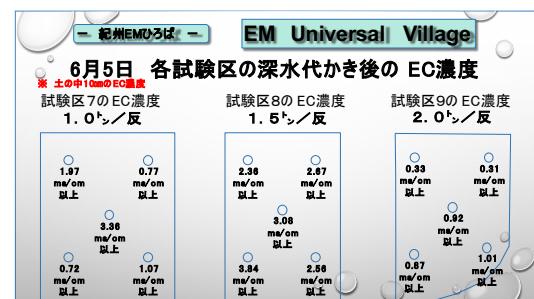
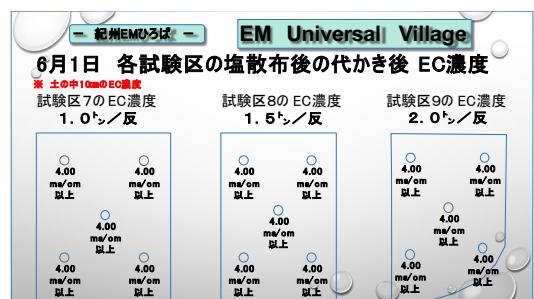
本年は鶯下地区にて試験区7区、8区、9区の3区画で行いました。昨年は荒おこしをした田んぼに塩を散布する方法で行いましたが、今回は3区画とも先に荒代かきと代かきを行い、その後に地面が2／3程度見える形で塩散布を行い、その後すぐに代かきを行いました。各試験の塩散布量は7区：1t／反のため1.5t、8区：1.5t／反のため1.8t、9区：2t／反のため2tとしました。また、昨年は春処理にEMボカシⅡ型を8区に150kg／反と9区に130kg／反を散布しましたが、今回は3つの試験区で秋処理と春処理にボカシ等の有機肥料は入れず、除草対策目的の塩のみの散布としました。

9区は5月28日に塩散布と代かき、8区と9区は5月29日に塩散布と代かきを行い、昨年同様 EC メーターを用いて各試験区のEC(電気伝導度)を測定しました。結果、すべての試験区の測定ポイントで EC 4.00 mS/cm 以上の EC 値が確認されました。その後、EC 値を下げるために7・8区には水位を10cm、9区は15cm の深水で翌日から代かきを行い EC 値の低下を観測しました。5月31日の代かき後の EC 値は全ての試験区の測定ポイントで、依然、4.00 mS/cm 以上の値を示しました。その後6月2日に再度代かきを実施し、6月5日に EC 値測定、ようやく EC 値が下がり始めました、7区では 0.72～3.98、8区では 2.07～3.08、9区では 0.31～1.01 と EC 値の低下が確認されました。ここで7区と8区は同じ10cm の深水での代かきであるにかかわらず8区では7区の2倍近い EC 値でした。9区は15cm 近い深水のため EC の低下が著しいと思われます。6月8日に代かきを行った区も順調に EC の低下が確認されました。また、9区に関しては通常の田んぼの EC 値にまで低下してきていました。その後の6月13日の田植え前の EC 値は7区で 0.23～0.88 となり2ヶ所の測定ポイントで 0.50 以上の値を示しました。8区では 0.54～1.15 と高値を示し、すべての測定ポイントで 0.50 以上の値でした。9区は 0.11～0.35 となり、0.35 のポイント以外は通常の田んぼの EC 値まで低下しました。結果 EC 測定後に田植えを通常通り行いました。私の田んぼでは代かき後4日～5日すればコナギなどの雑草が確認されましたが、全ての試験区で代かき5日後の田植前でも一切の雑草は確認されませんでした。6月18日も各試験においては雑草の発生は認められませんでした。7月3日の田植え3週間後に7区と8区で雑草のアゼナが確認されました。9区においては赤い丸で示すようにアゼナとコナギが確認されました。8月3日の出穂前には7区ではアゼナと極々少数のコナギが確認されました。



— 紀州EMひろば — EM Universal Village
荒代かきから田植えまでの作業

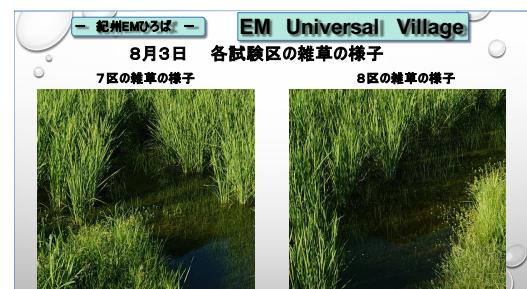
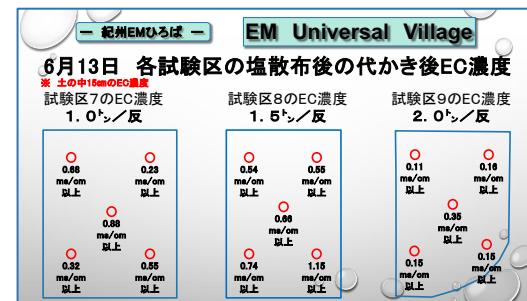
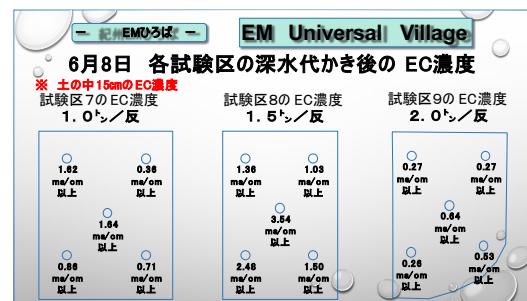
荒代かき	代かき	塩散布	EC測定	代かき	EC測定	代かき	EC測定	代かき	EC測定	田植え
7区 5月18日	5月23日	5月29日	5月29日	5月31日	6月1日	6月2日	6月5日	6月8日	6月13日	
8区 5月18日	5月23日	5月29日	5月29日	5月31日	6月1日	6月2日	6月5日	6月8日	6月13日	
9区 5月22日	5月23日	5月28日	5月29日	5月31日	6月1日	6月2日	6月5日	6月8日	6月13日	



コナギの確認された場所は6月13日の時点でEC値が0.32の低い値を示した場所で、6月5日の代かき後に、落水を早くするために15cmほどの溝を切った場所でした。8区ではアゼナ以外の雑草は何も確認されませんでした。9区においてはアゼナと赤丸で示した場所にコナギが確認されました。また、深水管理にもかかわらずヒ工が一部で確認されました。しかし、6月13日の田植え後、どの試験区も2週間以上、雑草の確認はされず、塩による雑草の遅延効果も確認されたと思います。今回は、昨年の塩散布方法と攪拌法を大幅に変更し、荒代かきと代かきを行い、その後に表面が2／3見える程度まで落水してから塩散布を行いました。塩の散布量は初めに示した様に7区では1.5t、8区では1.8t、9区では2tとしました。散布後すぐにハローにより土と塩を攪拌しEC値を測定しました。全ての試験区の測定ポイントで測定上限の4.00 mS/cmの値が出ました。通常であれば、この状態で2週間放置し、その後にEC値を下げるために代かきを数回行いますが、準備した苗が老齢化の危険があるため、翌日より代かきをはじめた事により、EC 4.00 mS/cm以上の高値を10日間以上持続できませんでした。結果として、試験区7区と8区では通常生えるコナギやイヌホタルイ、ヒ工、オモダカなどは確認されず、アゼナのみが確認されました。9区においてはアゼナやコナギ、ヒ工が確認されました。今回の塩の散布量については反当り1t～2tと幅を持たせEC値の変化を見ましたが、全ての試験区の測定ポイントでEC 4.00 mS/cm以上が確認されました。この事により塩の散布量は1t／反でも差し支えないと考えられます。しかし、9区のように2t／反の塩を散布してもECの数値が比較的早く下がれば、アゼナやコナギ、ヒ工が確認されるので塩の散布量よりも、EC 4.00 mS/cm以上の値を長く維持したほうが除草効果は高いと思われます。

また、残念ながら各試験区の収穫量と食味値は、この原稿を執筆中には、まだ出ていません。今後、収穫量と食味値の結果については、機会があればご報告したいと思います。

今後のアプローチとしては、塩散布量の適正値を確認するため、今秋中に250kg／反、500kg／反、750kg／反でEC値と塩分濃度を測定し、塩による雑草対策への標準値を検討します。またEC 4.00 mS/cm以上の値を長く保つことでアゼナやヒ工などの今回確認された雑草への効果を確認したいと考えています。



「横浜 EM ウエルネス構想 “EM ユニバーサルビレッジ横浜”」

あかね台眼科脳神経外科クリニック 杉本一朗

本プロジェクトは今年で 2 年目となりました。横浜 EM ウエルネス構想“EM ユニバーサルビレッジ横浜”的目標達成のためのセカンドステップ(EM 農業 & ショッププロジェクト)の活動を中心のご報告します。今年の 5 月に、「横浜 EM ウエルネス構想有志の会」が正式に設立され、本構想に賛同し意識の高い方がすでに 30 名ほど会員になって下さっています。

比嘉先生からのご指導や EM 研究機構の新谷さんらのサポート、EM 実践農家の事例を元に、EM 技術を活用した畑づくりを会員の皆さんと共に行っています。農業初心者の方が多いですが、栽培している農作物の種類が増え、どんどんと畠らしくなってきました。畠で収穫した農作物は、みんなシェアしているのですが、販売とか、レストラン、こども食堂に提供できる様に、安定して EM 農作物を生産、提供できるように将来的に持っていくたいと思います。畠作業に関しては、仲間である会員さんが 30 人程になったので、手は足りている状態だったので、畠作業の新規の参加者は募集していない状況です。

今後は、横浜 EM ウエルネス構想の考え方と共に感し、活動のサポートをしてくださる方を新たに募集していくと思っています。

今年の 4 月に EM の整流シールとゼロ磁場の勉強会を開催しました。診療所の駐車場で、車にシールを取り付けることで、エンジン音が急激に変わることをみんなで体験し、排気ガスの臭いが全くしなくなることも体験してもらいました。ゼロ磁場については、診療所の中で、方位磁石が色んな方向を向き、ゼロ磁場になることも皆さんに見てもらいました。整流シールの活用で、私の診療所では、当初 480 万円ぐらいあった電気代が、350 万円ぐらいまで下がった経験談をお話しました。

今年の 6 月に、横浜で映画蘇生の上映会と私の講演会を有志の方々が企画して下さいました。特に「つながる、笑顔の会」にて、昨年コロナワクチンの被害者たちのドキュメンタリー映画の上映会で、私のビデオメッセージを出しました。その繋がりで皆さんのが私の考え方や取り組みに共感してくださり、本プロジェクトにご協力いただいています。

7 月にはボカシ作り講習会と、鍼灸師の風間先生と一緒にオーリング講習会を行いました。8 月に新谷さんを講師に招き、整流ブロックづくり講習会を行い、300 個ぐらい作成したので、あらゆるところに設置しました。これで、高騰している電気代が、少しでも安くなればと診療所中にも設置しています。

また、EM ウエルネス 暮らしの発酵ライフスタイルリゾートの前川さんと相良さんがクリニックに取材に来られ、Youtube に動画が掲載されました。

<https://www.youtube.com/watch?v=mHPeizPRJOQ>



うかいグループは EM を前から活用されています。どうふ屋うかい(東京 芝)の綺麗な庭園は、元はボーリング場の跡地で、土壌が全く良くないという問題があり、EM を活用する様になりました。今では百倍利器で EM 活性液をつくり、グリーストラップにも EM を活用されています。

今後の展望としては、畑での作業を通して栽培方法や EM の活用方法を学ぶと共に、年間を通しての栽培スケジュールを改善しながら、EM 野菜を安定的、定期的に収穫できる体制と仕組みを整え、EM 野菜の販売も開始することで、セカンドステップの EM 農業 & ショッププロジェクトを成功させたいと考えています。セカンドステップが順調に進めば、サードステップの EM カフェ & レストランプロジェクトに着手する予定です。

また、文化的な活動として、会員の方々に予防医学的な教育として、環境の勉強会、オーリング講習会、交流ブロックの作成講習会、農業体験、さらに EM をもっと知つていただくために、比嘉先生の青空宮殿やサンシャインファームの見学、白鳥監督を招いて映画「蘇生」上映会と講演会も考えています。

私の診療所では、専門の眼科・脳神経外科以外に、抗加齢医学や予防医学にも力を入れてゆきます。病気にならないための方法をお伝えすると同時に、病気になった時に健康を取り戻すためにどうお手伝いできるかというところで、身近な環境の改善や腸内フローラ改善を行っていきます。

EM を活用した医食同源、予防医学を軸に横浜 EM ウエルネス構想“EM ユニバーサルビレッジ横浜”を実現していきます。

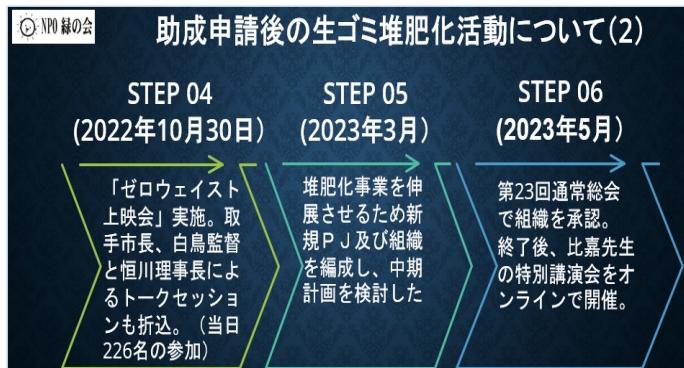
「取手市全世帯の生ごみ堆肥化に向けてのモデルづくり」

NPO 緑の会代表 恒川敏江、矢野勝明

3年目の進捗報告ということで現在迄の取り組みを振り返り、将来に向けどう活動するかというプロジェクトを報告致します。現在、私共の活動は取手市内の 2,000 世帯の家庭から出る生ゴミを県南 4 市の広域事務組合の常総環境センターからの委託事業で行っております。このプロジェクトの目標は取手市全世帯の生ゴミを資源である「宝」に変えるという事でしたが、県南 4 市の組長

の合意が必要な為、時間がかかるております。そこで、地元取手市の市議会予算委員会へのプレゼン等含めて今迄の活動を報告致します。

2020 年 1 月から始まった新型コロナ感染は 4 月に緊急事態宣言が発出されました。このプロジェクトを申請した 2021 年 7 月も感染が収まらず、2022 年～23 年にかけても対策を探りつつ徐々にしか活動が出来ませんでした。2023 年度に入り、収束に向かったので改めてこの取り組みの再構築を考えました。本助成申請から昨年までの活動についての資料です。新たな地区で始めた回収依頼も直近で 20 世帯に止まっております。この状態を開拓すべく、2022 年に入り市民に対し生ゴミを分別して堆肥化に協力して頂くようゼロウェイストプラスという上映会を企画し、実行委員会を立ち上げました。



2022年10月に上映会と同時に取手市の藤井市長、白鳥監督と恒川理事長によるトークセッションも折込み、白鳥監督から行政に対し大きな声援とアピールをして頂きました。当日は226名の参加と新規会員を10名獲得出来ました。2023年に入り、生ゴミを堆肥という宝に変えるプロジェクトを新たに計画し、事業推進部と事務局を置き検討して参りました。同年5月の第23回通常総会で組織の承認を頂き、活動を続けております。



中期計画初年度、2023年度の計画の概要を以下に示します。ステップ1～4という流れで堆肥場の見学ツアーの企画と支持者、会員の獲得を目指しました。また、堆肥化施設の視察を計画し、1箇所実施致しました。地元取手市の市議会調査委員会に対し、堆肥場の視察とプレゼンを行いました。平行して、回収地区を拡大すべく、自治会への協力要請を取手市の環境対策課と協同で進めております。

まず、初年度を振り返ってどう考えているかという内容を以下に纏めました。取手市が排出している可燃ゴミの内、生ゴミは8,690トンと想定されます。緑の会の堆肥化実績は5年間平均で年間120トンに止まり、高齢化の進展で近年は減少しつつあります。7月に視察したアイルクリーンテック様は規模的には取手市全世帯の生ゴミを堆肥化する施設としてはベストでしたが、製造会社が撤退したため再検討となりました。この結果を踏まえ、今年は生ゴミを提供頂ける住民を増やす活動に絞って活動すること致しました。緑の会の堆肥化処理能力は年間250トンと想定されますので、ここまで当面回収増を出来る体制を考えております。長期目標達成の為のロードマップも以下に示します。いずれもハードルが高いと感じておりますが、一步一步進めていく所存です。



長期目標達成に向けた構想を纏めました。新ビッレッジの開拓～現堆肥化施設のパワーアップ(交流の場としても改良する)～今年8月に実施した環境浄化活動で行った児童生徒向けの活動を学校教育に展開したいと考えております。このようなことを実施するためにはより多くの会員の獲得と会員の育成が必須と考えております。また、積み上がってくると予想される堆肥やEM資材を活用して頂ける利用者としてEMに前向きな農家様へ試験導入し、EMの素晴らしさを実感してもらう計画です。野菜の残渣については回収し又堆肥化するという循環を考えております。

最後に、今迄のご支援に感謝申し上げ、「EMさん有り難う」を合い言葉に今後もユニバーサルビッレッジ取手構想を進化させて参ります。今後も宜しくお願ひ致します。



「農村・都市ぐるぐるエコの会」

U-net 理事 石川文雄

このプロジェクトは、EMを活用した生ごみ資源化に取り組んで23年になる(株)ケイアンドケイと信頼関係が出来た生産農家の方々で2021年「農村・都市ぐるぐるエコの会」を立ち上げ、今年で3年目となります。目的は、EMを活用した「生ごみ資源化による食と農が地域循環するエコまちづくり」を、新技術のEM整流結界農法で推進し、SDGsを具現、農村と都市の善循環を進め、健康寿命をのばし、快適で安住できる社会づくりを目指します。事業内容は現行の取組みを核として、この循環の輪を太く、大きく広げる最大の課題は、生産農家が安全でおいしい有機農産物を、手間をかけず、収量を上げ、ローコストで、持続的に供給できる体制を、EM整流結界農法を活用して作るということで3年間取り組んでいます。

実施状況としては、生ゴミと地域にある有機物を資源化して農家にこれを使ってもらい有機農産物を生産することと、それを販売することに力を入れております。

現在では、チェーン展開している東光ストアへの出荷を12店舗から15店舗に拡大するとともに、有機農産物の良さを実感してもらいたいということで試食会を開催しています。また、コープさんや三越さん、丸井デパートさんにギフトを出したり、昨年の10月にはケイアンドケイ事務所内にアンテナショップをオープンし、本活動の意義を消費者に理解してもらうよう取り組んでいるところです。

EM整流結界資材の製造							
基地: ケイアンドケイ三笠FAリサイクルセンター							体制: センター長他5名
EM整流ブロック製造量: 2021年 500t、2022年 300t、2023年 150t							
配合表							
材料名	単位	EM	チカラトロッピ	砂	貝殻灰	EM追肥液 (100倍)	貯肥庫 スーパーセラC
ゼットラル	kg	10kg	10kg	5kg	30g	7袋	1.5kg 30kg×1.5kg -20ヶ
30kg							20t

EM海水活性液製造: 2021年 600t、2022年 1,700t、2023年 1,200t

配合表 (種菌)

EM-1 2.50% 10kg 5.00% 90.00% 3.00% 1/2,000



ぐるぐるえこ 有機農産物の販売状況

東光ストア
(札幌市内12店舗から15店舗に増)



コープさっぽろ
(道内 宅配ドック)



有機栽培 全農家 大塚ファーム はるか農園

有機栽培 全農家

大塚ファーム はるか農園

農村・都市のぐるぐるエコまちつくりメンバーは、大塚ファーム（新篠津村）、はるか農園（千歳市）、渡辺農産（南幌町）、佐藤農場（南幌町）、城地農産

（南幌町）、よご農園（恵庭市）、石浦農園（平取町）、
（株）ケイアンドケイ（札幌市、三笠市）です。皆さん10ha
以上のプロの専業農家であり、北海道は基本一毛作なので
慎重に一步一步確認しながら命がけで取り組んでい
ます。

各農家での実施状況としては、新篠津の大塚ファームで
は、EM 使用歴 20 年、EM 整流結界農法に取り組んで 3

年目となります。昨年、長雨による日照不足による生育不良、コロナによる人手不足の影響で EM 整流結界等の
手当も不充分でしたが、最終的には前年並に回復しました。今年については、6～8 月の気温が異常に高く、作物
全体に影響がありましたが、収量については今のところ前年並みかやや多くなっています。

千歳のはるか農園についても 2022 年は、雷雨や雹の影響でかなり厳しい状況で、7、8 月は長雨による日照不足
でさらに状況は悪化していました。その対策として、高濃度の EM 塩活性液を何回か散布し整流結界を設置す
ることにより、結果的には、かぼちゃ・じゃがいも・お米と
も平年並みまで収量が回復しました。右の写真が、
被害を受けた玉ねぎ（左）・かぼちゃ（中）と、最終的に
回復したかぼちゃ（右）の状態です。2023 年につい
ては、気候の影響で高冷地野菜である、玉ねぎ・じゃが
いもの状態は良くないが、かぼちゃ・お米・大豆は例年
より良い状態で整流結界の効果があったと お話しさ
れていました。

次は、南幌町の渡辺農園です。こちらも 2022 年
は気候的に同様の状況でした。例年、ほうれん草や
ピーマンはアブラムシなどの病害虫に悩まされておりま
したが、この年は殆どアブラムシの害がなく、キュウリな
どは収穫期間も伸びたとのことでした。成育状況は写
真にあるように、ほうれん草（左）も良い状態。ピーマン
（中）も虫が殆どいない状態で、異常気象の中であっ
ても収量が増えたとのことです。

2023 年については、熱波による高温の影響で、前年良好だったほうれん草は溶けだし、ピーマンもアブラムシが発
生し大変苦労したが、対策として濃い EM 活性液を連日散布してもらったところ回復し、かぼちゃ、大豆、トマト、キ
ュウリ、ナスなどは順調で EM の効果があったと話されていました。

2023 年 3 月には生産農家さんと研究会を開催しました。異常気象の中、各参加者ともますますの成果があり、
EM の効果を実感しておられました。来年以降も異常気象は続くと予想されますが、皆さんこれまでの経験から、超
高温による地熱上昇による影響を EM がコントロールしてくれると理解しているので、農地の EM レベルを上げるべく
EM グラビトロン炭等の新技術を取り入れながら、みんなで協力・実践していくことで合意しました。次回の研
究会は 2024 年 2 月中に実施予定です。



「水琴窟の巨匠とコラボした癒しと美味しさと楽しさと、すべての命を支える高波動 オーガニックガーデン」

EM 親善大使・U-net 理事 野本千壽子

2021年4月からスタートして、1000坪の耕作放棄地を、高波動EMオーガニックガーデンにした、2年4か月の活動がDVDになりました。

全国から、ボランティアとして、関わっていただいた方は、延べ500人。2023年6月24日、松山市道後に集っていただきました63名の皆様とともに、オープン祝賀会を行い、翌日は、現地勉強会も実施しました。

これまでにかかった経費は、ウクライナ侵攻による材料費の高騰や、井戸掘り作業の延期による人件費など、予定していた経費の3倍にも膨らみ、総工費は、1448万7千円となりましたが、クラウドファンディングや、祝賀会当日に寄せられた御祝儀や寄附65万円を合わせて支払いも完了し、新たな一步を踏み出しました。具体的な取り組みについてDVD希望の方は、法人FAXへお申込み下さい(FAX089-907-8018) 送料込み2,500円後払いです。

私は、このガーデンを作る過程で、比嘉照夫教授が書かれた「地球を救う大変革」1~3に示されたことを実現すべく、EMの量子的な特色を生かした究極の場づくりに励みました。そのきっかけは、2022年4月17日早朝、朝日に向かってEM讃詞を唱えている時、突如として降りて来た宇宙に旅立たれた比嘉節子さんからのメッセージ、「比嘉照夫の集大成を整える役目はあなたよ!早く構想を練りなさい」でした。ですから、そのことを検証する場にしなければと、EMを真ん中に置いて、困った時には何でもEMで挑戦するという態度を貫いて來たのです。

そこで、比嘉教授が本を出版された当時に立ち返り、繰り返し読み直し、EMが単なる微生物の集合体ではない、量子の世界の特色を持つ不思議な生き物として確信を持たれた当時の教授の気持ちを共有しながら、起きた現象を確認、波動測定で数値化し、「比嘉教授の理論はこれが現実だ!!」と、具現化してお伝え出来るようになりました。

今回はその確認できたことをいくつかご報告させていただきます。

1冊目の3章には、「医療問題にも、解決の道がある」と記されています。P151やP164には、【精神的な病、心の歪みがあると活性酸素が出て、抗酸化力が高まれば自然治癒力も高まる】と明示されています。

そこで、柳原満紘氏の協力を得て、ストレスと血流に注目をして改善の方法を探りました。

その理由は、日本の名医も、ドイツのノーベル賞博士たちも、ガンの発生原因は酸素不足で、酸素不足が重大な病を引き起こすと書かれてあったからです。

ストレスは血管を収縮させ血液の流れを悪くするので、身体が酸素不足に陥ると。

私は6年前、Oリング協会認定医師で歯科医師をされている新潟の片山修氏から、ストレスが血流を悪くする動画をいただき、血液の流れが如何に大切かを認識しておりましたので、ガンや発達障害、精神疾患やパーキンソン病などでお困りのEM仲間に、柳原満紘氏の協力を得て頸椎神経の血流の改善を行い、抗酸化力の高い食べ物をお勧めしております。

ところが、全国のEM仲間が栽培した作物を波動測定器で確認しているうちに、本当に安全で、抗酸化力の高い作物と言えない物がたくさん存在することに気づきました。昔ながらのEM栽培では、農薬や化学肥料を使った作物と余り変わらない、一桁の数値でした。



結界をつくり EM グラビトロン農法を始めたという農家さんのものでも、せいぜい免疫は 60 程度、酷いものでは免疫 9 以下というのもありました。

何故、このような結果になってしまうのでしょうか。

比嘉教授は、地球を救う大変革の②の P230 に、水汚染でゆがんだ情報が、河川、湖沼、そして海から地下水まで伝わって構造化しつつあると述べられ、EM セラミックスで大変革が起こせるとも書かれています。

2023 年 8 月 15 日、岡山で線状降水帯が発生するとのニュースを聞き、降り始めの雨を採取、届けてもらい測定をお願いしました。この雨は、免疫 2 心配不安マイナス 13 怒りや恨みはマイナス 15 などと、日本国民が抱いている悲惨な感情を上空から、日本列島全体にバラ撒いている雨なのだと認識しなければなりません。畑にも田んぼにも、池にも降っている雨が、このような情報をまき散らしているですから、結界も炭も使わない畑では、このゆがんだ情報に汚染された作物になっている。だから、EM 栽培であっても抗酸化力の低い作物が存在するのだ。結界や炭や塩や EM 讀詞や柏手が、EM 活性液の他に欠かせない理由はこれだと確信しました。

さらに P231 には、EM の抗酸化誘発作用は、広い意味で抗酸化現象として存在し、EM が作り出す抗酸化物質のレベルを水の中で高めると、非イオン化の場が出現し、あらゆる分野に適応が可能であるとも。

特に農業への応用では、セラミックスを土に混和すれば、EM が逃げたり機能しなくなったりするのを防ぐと。そこで井戸水の EM セラミックス化を行い、水中にイブストーンも取り付けたところ、2220 の免疫を示す水が実現しました。

私達が無煙炭火器で作る炭の免疫は、22,000 にもなります。私達は 0.5 ガウスという地磁気の中で生活しており、動植物の波動を食べて肉体を作っています。

私が免疫といっている免疫波動は、大地(地磁気)との共鳴度を計っているので、食物波動と自分の波動とが上手く共鳴しあう食べ物を摂取する事がとても大切なのです。食べて細胞が喜ぶ、幸福度が高い作物や抗酸化力の高い食べ物を摂取すると、自己治癒力が高まるこども頷けます。

そこで私は、抗酸化力に優れている自己治癒力が高まる作物の出荷基準を、【EM ルーペ】と名づけ、特 A や A の基準を設けて出荷することにしました。

ソバージュ栽培で 2022 年 12 月まで実り続けたなす畠の古苗は、2m の根を張っていました。始末後、うっかり何のメンテもしないで放置、今年の春同じ畠になすを植え付けました。

しばらくすると茶色のテントウムシがびっしり集まり、葉から緑が消え、葉脈だけが残っている悲惨な状態になりました。それをセラミックスと墨汁を混ぜた活性液で、蘇らせる公開実験を行いました。祝賀会に参加された次の日に、ガーデンに集まった 30 人が見届け人です。48 時間後には新しい葉を見つけました。そこで根元を雑草堆肥で覆うように炭と塩と活性液を撒き、廃棄用の畳表を被せて微生物たちが逃げない環境を作りました。

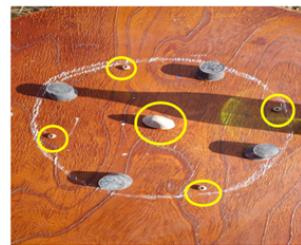
2023年8月15日 岡山県A地点にて 線状降水帯による降り始めの雨を採取 波動測定値で測定

免 疫	2	感謝の心	-5	悲しみ	-3
視床下部	2	求める愛	-9	心配不安	-13
小腸	2	与える愛	-9	怒り	-15
肝臓	-2	ストレス	-8	恨み	-15
腎臓	-2	寂しさ	-2	幸福	-7
子宮	-7				今の世の中の動きに対する感情が反映

井戸水の免疫は
2220を示す

これを畑に 散布している

井戸水の底には
結界をつくるように
4隅に整流フロックを並べ
真ん中に
イブストーンを置き
さらに♥をくりぬいた
イブストーンを
水中につるして
EMセラミック化を図った



48時間後には新しい葉が現れて

なすは見事に甦り、白なすも紫色のなすも立派な実をつけました。

収穫後のなすの免疫にも変化が起きました。このなすを【ガーデンやさい蘇生なす】と命名して、公開実験に参加された東京でレストランを営む小林秀光さんに託しました。

彼は直感を働かせて、スープやグラタン、イタリアの団子料理、パスタなど、お客様から大絶賛された料理に仕上げて下さいました。

9月2日に二度目のなすを発送、輸送費の節約を考えてクールではなく常温発送にしました。ところが箱から出てきたなすは、茶色に変色していました。

小林さんはそのなすに「暑かったね、ごめんね。東京に来てくれてありがとう。」と、伝えながら、一つひとつ新聞に撒いて冷蔵庫に保管してしばらく寝かせられました。

するとどうでしょう。9日に送ってきたなすの映像では、見事に蘇っているではありませんか？奇跡のなすが再び奇跡を見せてくれました。

彼は白鳥哲監督の「恩送り」の食事会を任せられたシェフであり、レストランや電気もEM化しておられます。

比嘉教授は地球を救う大変革③のP76に、抗酸化波動による光合成細菌からの波動と運動した微生物の効果について述べておられます。光合成細菌が量子的な特異な振る舞いを見せ、古典物理学ではあり得ない現象を引き起こしてくれたと確信しました。

このガーデンでは、ジャガイモもEMの素晴らしい現象を見せました。酸素を嫌う光合成細菌が土の中で、芋を大きくした事例です。

3月に東京と広島から笑顔グループの子ども達が、ジャガイモの植え付け体験にやってきて、切り口にセラミックスを添付、掘った穴に炭を入れ、切り口を上にして土に戻しました。すぐに大きくなって花も咲きましたが、長雨で地上部分が枯れてしまいました。

葉は枯れても土の中の微生物たちが、共鳴状態を保って大きく育てるイメージして畝の上にキャリーを置き、空気の層をつくり、ブルーシートで覆い雨を防ぎ7月中旬まで置きました。（出島以外のものは植え付けが遅いので、8月上旬まで土の中）抗酸化力の高い、見事なジャガイモの収穫です。

ガーデンの収穫やさいが、すべて免疫400を超える高波動野菜に育つ理由は、空間や土の中で、光合成細菌との運動が起きている。だからEMなしでは、究極の結果は生まれないと強く認識しています。

また、薬を使わない病気の回復を目指す方のために、EMの特徴を生かして、桑茶と野ぶどう茶の開発を行いました。桑茶葉の免疫640、茶エキスの免疫744、継続飲用にて糖尿病の変化を確認して下さる協力者に提供しております。

更に、野ぶどう茶の量産を目指して苗木の準備も整いました。来年は本格的にパーキンソン病などにも効果が高い野ぶどう茶を生産して参ります。

ガーデンやさい蘇生なすのボルペッティ（イタリア料理の団子）

ガーデンやさい蘇生なすの玄米冷製パスタ



ボルペッティの団子と中のようす



ジャガイモの成長を「土の中の微生物に託す」というイメージで
畝の上にキャリーを重ねて置き
雨から守るためにブルーシートで覆い
ジャガイモは8月上旬まで畝の中に置いていた



EM処理をして植え付けたジャガイモが
長雨で地上部の茎や葉が枯れてしまった



植え付け時に石を入れた結果 入れなかった畝のジャガイモの 大きさと食味を比較すると
石入りの免疫466 石なしの免疫533

井戸工事のためにユンボで踏み固められた畠は水はけが悪く、少しの雨でも長靴がいるほど水が溜まります。1m間隔に穴を掘り、国土交通省から頂いた土手の草を入れ、燻炭と活性液を加えて微生物菌叢を作った落とし穴で2週間後には、水はけのよい波動の高い、気持ちのよい畠環境ができました。

ガーデンでの運動のしきみをまとめると、使用する農園のグラビトロン炭の免疫は、22,000、散布する井戸水は、2,200 坂村真民の詩碑の中心は、6120 つどいのいすの台座も、EM 結界 円形ガーデンの結界も、特別な高波動結界ボトル、圃場全体は、10 リットルの穴の結界と電気の引き込みポールの原子転換、圃場全体は、ぬかと活性液の EM 菌叢で、光合成細菌が逃げ出さない環境が整ってきたお陰と感じております。

また重ね効果も大切にして、ガーデンで用いる名前や設置する物の方位、畠の向きなども、自然の理に適うよう徹底研究して、EM の熱心な実践者でもあり、作物の出来栄えに妥協を許さない【EM 見回り役】として目を光らせる U ネット理事の知恵を頂きながら、歩んでおります。

屋外に置いたピアノ実験を始め、雨からも、日日照りからも、寒さからも守り抜き、432Hzの最高のピアノに育てる実験を行います。

セラミックスや EM コーティングや結界などで奇跡を起こすピアノは、体にいい、素敵な音色を響かせて、ここに集う皆さんや作物たちにも、幸福度の高い波動を繋いでくれることでしょう。

これまでガーデン作りに多大なご協力を頂いた恩送り事業として、返礼品としての現地指導や講演会、ガーデンやさいとレストランとのコラボ事業、あと一歩 EM ルーペ認証応援プロジェクトなどをご用意しています。

さらに、今一番急がなければならない放射能問題、海に放流の処理水や全国にバラ撒く計画の汚染土も、EM を使った安全な処理方法を国会議員や、東電の職員にも学んでいただき、速やかに、安心・安全な国造りを進めていけるよう女子会を設立して立ち上がりたいと考えております。

水琴窟の巨匠の中村洞水氏制作、水が奏でる素敵な音色、是非お越しください！



屋外に置くピアノを移動させず
雨からも日日照りからも寒さからも守り抜き
432Hzの最高のピアノに育てる EMピアノ実験(特殊な防水カバー)



「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

本日ご発表いただいた皆さん、ありがとうございました。

これで世界の農業革命、農業の難問を解決できるという基本情報が揃ってきました。

それぞれやっている方々のレベルの差はありますが、重ねてずっと継続することで必ず良いレベルまで到達します。結果論的には、炭と塩を上手に使うことです。アマゾンのテラブレタでは大量にバイオ炭を使いますが、EM 技術で簡単に同様なレベルに到達する方法として 14~15 年前から炭の応用を考えてきました。その後、4 年くらい前に岩手コンポストで炭を製造できることになり、この炭を種にして他の一般的な炭の機能性を向上させる取組みがスタートしました。また、海水 EM 活性液を使うと、農薬が要らず、海水 EM 活性液を 1/50~1/100 倍希釈を連続的に散布すると、農薬に置き換わる効果が現われます。

山路さんの取組みは、農業革命どころか、たいへんな事で、肥料がいらぬ塩だけでお米が作れる。世界中で肥料が足りないと言われている現状で、塩だけで良いとか、塩で雑草対策もでき、土も柔らかくなるという、将来の方向性が見えてきたと考えています。

畔菜(アゼナ)はこれまで出てこなかった雑草で、田んぼの下で寝ていた種子が出て来た訳ですが、草丈も高くならないですし、イネの草丈が高くなれば心配要らない雑草です。他の雑草に対しても、山路さんの発表にあったように対応すれば、だんだんと雑草も少なくなります。また上手に管理することで、塩の施用も少なくなり、最終的には全く要らないというレベルにまで持って行くことも可能となります。

石川さんの取組みもすごいことで、北海道の大規模な作物生産農家において EM グラビトン結界を設置しています。今年の大変な気象変動に対して、最終的には収穫もでき、収量も例年並みというレベルはすごいことです。炭や塩を施用することで、空間のエネルギーが熱ではなく、他のエネルギーに変わります。土壤の温度を測定すると分かりますが、炭や塩で EM グラビトン結界を設置しているところでは、夏場の地温が 2~3 度低くなります。また、地温が生長のエネルギーに変わってしまうと言う、云わば、量子力学的な応用として考えています。このような技術は、不耕起栽培の場面でも応用でき、塩とボカシを半々にし、ペレット状にしたものを圃場の表面に置くことで、除草効果も肥料効果も確認できます。耕すと言う、たいへんな農業の思いをしなければ、不耕起が一番良い方法だとこれまで述べてきました。

今年 8 月の台風 6 号は、超巨大で 4 日間も暴風雨が吹き荒れました。沖縄本島を中心とする EM グラビトン結果は約 700 キロの範囲ですが、台風 6 号は約 1200 キロの範囲に発達しました。ですが、意外に被害は少なく、8 月下旬には早生温州ミカンも出荷されている新聞報道記事もありまし、ハウスの倒壊も意外に少ない状況です。私のバナ園も影響を受けましたが、そのことエコピュア上の連載第 186 回で紹介しています(2023 年 8 月 30 日更新)。

台風が過ぎて 30 日後の私の農園は、台風被害が分からない状況になっています。台風直後に塩を 50 キロ撒いて、EM を 200 リットルくらい畑中に散布しました。畑中を EM だけにした訳です。その後、EM グラビトン炭と塩を半々にして畑中に施用したところ、植物の状態がまるっきり変わり、畑の状態が戻ってきました。この 1 ヶ月の間に、大きなバナナが出荷出来ました。またグアバも美味しく収穫できていますので、EM グラビトン結界をしっかり設置して、ボカシと塩を半々にして、畑の表面において行き、耕さない管理を私は継続しています。通常では、台風後に畑を整備しようと土を作ろうとして耕しますが、EM では耕さない方法を実践しています。

灌水には良い品質の EM 活性液を使い散布します。また、時間があれば有機物を炭にして、EM 整流炭として土壤に戻します。気候変動や肥料不足に対しても、農薬や雑草対策にしても、今日の発表を聞くと全てにおいて対応が可能と分かりました。

めぐる革生プロジェクトの場合は、まだ経験が足りないだけで、情報の活用方法にまだ時間がかかる感じですが、目標を持ってあきらめずに取り組んでいますので、2~3 年で素晴らしい成果になると期待しています。前回発表のアミタファームの塩トマトは、食べてみたらすごい出来でした。神奈川の小泉さんのトマトもすごい品質で、EM による栽培方法を工夫しています。多くの方が同様に取り組み、EM 栽培の応用が当たり前のようなになれば、農業も環境も健康もすべて解決できると確信しています。

私が「地球を救う大変革」を書いた当時、もう 25 年くらい前ですが、その当時にあのようなことを書くので、EM はエセだと叩かれました。この背景には、日本人の多くが勉強ばかりして、ひとの知恵ばかり借りて検証しない。その結果、日本がどんどん世界に負けて行く。新技術の判定や検証は、今後は AI にまかせて、本当の研究をこれからはやって行く必要があると考えています。

NPO 緑の会は、ここまで組織が成長して、もはや社会の資産になっていますので、今回の他の発表者からの知恵を取り入れて行くことで、更に新しい活動につながり、気付いてみると、取手市を中心に茨城県が活性化されるという、原点にもなりますので、今後おもしろい展開が期待できます。

北海道の石川さんのところは、300 トンの生ごみをすべて有機肥料にし、生ゴミ→肥料→作物生産と循環しています。その結果、収益性も上げ、更には関係する人たちが健康になってぐるぐる回るという方向を目指して改善して行くことで、立派な社会資産として社会のベースとなると考えています。

EM グラビトン技術を上手に活用することで、杉本先生のクリニックの様に電気料の節約効果も現れてきます。杉本先生は長いこと EM に取り組んでいますので、これまで報告されたように、電気料が 5% 下がるというのは大変なことです。電気料が更に 15~20% 下がると言うことは本当にすごいことです。杉本先生のクリニックでの EM 活用について、近い将来、新しい方法で改良しようと考えています。

今日は潜在力のある、内容の充実した情報を寄せていただきました。U-net のユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトは、今日の発表の他にもたくさん控えていますので、次回も他の取組みの報告をいただき、皆さんで勉強して行き、U-net 会員の EM 技術レベルを向上させながら、楽しい人生、楽しい理想的な社会づくり、どんな困難にも対応できるという未来を拓いて行ければと考えています。どうもありがとうございます。

★令和 5 年第 4 回 EM 技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内（会員限定）

7 月 7 日に開催された第 4 回 EM 技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画が視聴できます。

【配信期間】 10 月 27 日(金)の朝9時～10 月 30 日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は **10 月 23 日(月)** までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局 (info@unet.or.jp) へメールにてご連絡をください。
視聴用 URL は 10 月 26 日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

事務局からのお知らせ

■来年3月1日開催の第25回U-net通常総会出席者限定セミナーは、ハイブリッド開催(会場参加、またはオンライン参加が選択可能)で行うことになりました。

8月9日に開催された執行委員会にて、来年3月1日(金)開催の令和6年度第1回理事会、第25回通常総会および総会出席者限定セミナーの開催形式について協議がなされ、理事会及び通常総会は引き続きオンラインで開催することになりました。

一方で、総会後に開催される総会出席者限定セミナーについては比嘉先生のご講演を直に聴きたい、会員同士で実際に会って交流したいとのご要望も多いことから、オンライン参加以外にも沖縄県のホテル内の会場で発表者の発表を直接聞ける会場参加を選べるハイブリット方式で開催することになりました。

また、翌日の3月2日(土)は、当会法人会員のEM研究機構様にご協力いただき、北中城村ユニアーサルビレッジプロジェクト(農を活かした健康・福祉の里づくり)事業のバイオガス施設などの建設が進んでいるプロジェクトサイトの視察、比嘉先生の青空宮殿、サンシャインファーム等の視察ツアーやEMワークショップを会場参加者対象に行うことを計画しています。

具体的なプログラムや申し込み方法については、次号のU-net通信でお知らせいたします。

■EMグリーン・ムーブメント・コンテスト2023開催中です。

当会法人会員のEM研究機構様が世界のEMユーザー、ボランティアを対象にEMグリーン・ムーブメント・コンテスト2023を開催中です。

EMグリーン・ムーブメントとは、人、環境、地球に関する問題に対する意識を高め、EM技術で解決策を見出す活動です。本活動を世界中で盛り上げるために国内外のEMを活用した活動の動画をSNSで発信してゆきます。

EM研究機構では、今年12月まで、a) 河川浄化(EM 団子イベント、団子づくり、河川浄化プロジェクトなど)、b) 環境浄化(汚染土壤改善、廃棄物処理、衛生改善など)、c) CSR(自然災害支援、ボランティア活動など)、d) 家庭用(EMで清掃、生ゴミ堆肥化など)のコンテスト用の動画を募集中です。

本コンテストへの応募に関心のある会員の方は、U-net事務局までご連絡ください。コンテストの案内と参加方法資料をメールにて送信します。

★令和5年第5回EM技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和5年第5回EM技術セミナーを令和5年11月10日(金)14時~16時に開催します。

セミナーへの参加申込は10月3日(火)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始します。お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。お申込みの締め切りは11月9日(木)です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※ 令和5年第5回EM技術セミナーはU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。

例) 姓 名

ウェビナー登録についてご不明な点がありましたら、U-net事務局にお問合せ下さい。